

1 活動名

福岡市行政視察

2 調査の目的

(1) 本市における課題

松本市は牛伏寺断層が走っていることや、近年の気候変化による水害など、災害がいつ発生してもおかしくない状況にある中、避難所運営等についてさらに充実していくことが求められる。

(2) 調査の必要性

避難所運営等に工夫して取り組んでいる先進地を視察し、参考にする必要がある

(3) 調査項目

防災アプリ「ツナガル+ (プラス)」について

3 調査地選定理由

(1) 福岡市

九州熊本地震の際の救援活動経験があること。防災アプリを開発し、防災の先進的な施策を推進しているため。

4 調査結果

(1) 2019年7月5日

(2) 出席者 2名 内田麻美 上條美智子

(3) 成果・所感等

防災アプリ「ツナガル+ (プラス)」は、多様な避難者が発生した場合も対応できる方法が考えられている。家庭の事情でやむなく車中泊をしている市民がアプリから救援物資などの情報を得られる。災害時だけでなく、平常時のコミュニティーの利用が出来る。災害時は自動的に災害モードに切り替わり、情報交換ができる。福岡市は、震度5強クラスの地震発生時、職員が自宅から30分以内の分担している避難所に向かいカギを開ける指示が出ているという。

福岡市は、熊本地震を受けて、市民の意識が高まっていると感じました。松本市も、ツイッター、ライン、マチイロ等、SNSを使って発信がされている。福岡市の取組みを参考に、防災支援の参考としていきたい。

5 政務活動費

(1) 使途項目 調査旅費

(2) 支出額 125,780円

(日当 6,000円、宿泊費 14,800円、交通費 42,090円) × 2人